

観光フォーラム

批判的ツーリズム研究国際的大会の動向

International Conferences on Critical Tourism Studies

大橋 昭一

Shoichi Ohashi

和歌山大学観光学部

ここで紹介するのは、下記の2つの国際的研究大会の動向である。両者とも、基本的には、イギリス・サリー大学のトライブ (Tribe, J.) らが近年精力的に推進している批判的ツーリズム研究 (critical theory of tourism: 本稿筆者のいう批判的観光学) に基礎を置くものである。

この批判的方向が、どのようなものであるかは、別稿 (注文献) で大要を論述しているので、それをみていただきたい。この批判的方向の各論者は、現在のところ、全体的には、緩やかなネットワーク関係にあるというべきもので、方法論上明確な1つの学派というほど結合が強いものではない。

そこで、この方向を2つに大別すると、「批判」という言葉を強くとり、基本的には、現在の資本主義的社会体制に対して根本的に批判的という意味で考えているものと、これに対して、「批判」といっても現在の社会体制を前提として受け入れ、そのなかにおける部分的な修正を追究するという意味で考えているものとなる。

前者では、理論的基礎は、結局、マルクス主義に求められることになる。少なくともそれを忌避しないものとなる。これに対して、後者では、それに囚われず、かなり広い視野で、少なくとも現状の改善・改革に志向するものとなる。

この後者の方向では、それ故、現在の社会体制を、必ずしも資本主義的体制としてとらえるのではなく、例えば、ポスト・モダン社会としてとらえ、ツーリズムはその象徴的な事象として推進すべきものと規定されることになる。

しかしその場合、現状をそのまま認めるものではない。その改善が必要であるとする。その主流的な考え方によれば、例えば現在のマス・ツーリズムでは環境保全の考え方などにおいて弱いところがあるから、それに代えて、ホープフル・ツーリズム (hopeful tourism) の考え方を提示し、それをスローガンにすべきことが強く主張される。

現在のマス・ツーリズムが持つこうした問題点の根源は、これらの批判論者によると、要するに、それらがネオ・リベラリズム的な考え方によって支配され、推進されているところにあると

考えられる。つまり、それはネオ・リベラリズム的ツーリズムと聞いていいものであり、そうした根本的にはリベラリズム的であるようなツーリズムでは、今後いずれツーリズムは行き詰まってしまう。それ故、これを改め、環境保全をはじめとして人間の真の幸福、希望ある生活を可能にするようなツーリズムへの転換を行い、その推進が図られるべきである。それは、ツーリズムの発展にとっても不可欠であると、この立場は主張するのである。

この方向の考え方は、「未来志向的ツーリズム教育論」 (Tourism Education Futures Initiative: TEFI) といわれ、ツーリズム研究でも教育面の充実に重点を置く所に特徴がある。これに対して、今1つの「批判的」を強い意味でとらえる前者の方向は、ホープフル・ツーリズムというスローガンでは、TEFIの方向と同じくするが、どちらかといえば理論的研究に重点がある。その世界的な国際的大会は「批判的ツーリズム研究国際大会」 (International Critical Tourism Studies Conference: 単にCTSともいう) といわれる。

以下では、まず、TEFI大会から紹介する。

(1) 「TEFI大会」: TEFIは、2007年4月、13か国のツーリズム関係者・研究者・業界関係者48人がウィーンのマデュール大学で会合を開き、とりあえず2010年から2030年に至るツーリズム教育の基本的枠組みを策定するための作業を行うよう決めたことに始まる。

このため、この会合出席予定者には、事前にアンケートが行われ、会合で主として論議されるべきツーリズムの能力・スキルについて意見聴取がなされていた。それによると、ツーリズム教育では、特に次の4つのスキルが必須であろうという結果であった。

① 「ツーリズム目的地についてのステュワードシップ・スキル」 (destination stewardship skills): 例えば、ツーリズム目的地について知識を共有するスキル; 複雑な適応的システムをマネジメントするスキル; 環境をマネジメントするスキルなど。

②政治的倫理的スキル (political and ethical skills) : 例えば、人間には倫理的な行動動機もあることを理解しておくスキル ; 働く場所において基本的人間価値を統合させるスキル ; 政治的過程に影響を与える活動のスキルなど。

③人的資源能力を向上させるスキル (enhanced human resource skills) : 例えば、チーム形成のスキル ; 他の人々の声を聴いたり、他人と交渉するスキル ; 動機づけとリーダーシップのスキル ; 当該職場にいない人々の中で協働できるスキル ; 情熱を持った知性のスキルなど。

④ダイナミックなビジネス・スキル (dynamic business skills) : 例えば、弾力的作業・職務拡大的思考・批判的思考・革新的企業者思考を持つこと ; 常識的センスを適度に発揮するスキル ; 新しい情報技術のスキル ; 多文化適応的でリスク感受性を持ったスキルなど。

これに基づき、引き続きTEFIの第1回大会がウィーンの同大学で開催され、ハワイ大学の未来学者データー (Dator,J.) が基調講演を行った。その際上記の4つのスキルは、さらに検討を加え、TEFI 価値としてまとめられることになり、現在のところ、次のように抽象的原理的に表現されるものとなっている。

すなわち、①倫理 (ethic)、②知識 (knowledge)、③スチュワードシップ (stewardship)、④プロフェッショナリズム (professionalism)、⑤相互尊重性 (mutual respect) であるが、その内容は、上記別稿で詳述しているので、ここでは触れない。この5つの価値の具体的内容を示したものが、上記の4つのカテゴリーで示されたスキルであると理解されればよい。TEFI は、簡潔には「価値をベースにしたツーリズム教育」(value led learning) といわれるが、土台は専門的スキルにあることが注目されるべき点である。

TEFI 大会は、毎年1回定期的には開催され、ウィーンの第1回に続いて、第2回(2008年)ハワイ、第3回(2009年)

ルガノ、第4回(2010年)サン・セバスチアン、第5回(2011年)フィラデルフィア・テンプル大学で行われてきた。

TEFI 大会には、図表1のようないくつかの有力大学・機関の協賛 (sponsoring) もあり、この運動は、アメリカ、オーストラリア、ヨーロッパを中心に、ツーリズム業界も巻き込んだ世界的な大きな流れとなっている。今や世界のツーリズム論の主流的地位にあるものといってもいい。

直近の第6回大会は、ミラノで、2012年6月28~30日に開催された。開会スピーチは、下記6人が行っている。

- ①アントニオリ (Antonoli,M.: Bocconi University, Milano)
- ②シェルドン (Sheldon,P.:University of Hawaii)
- ③フェッセンマイアー (Fessenmaier,D.:TempleUniversity, Philadelphia)
- ④タヤニ (Tajani,A.: Vice President, European Commission and Commissioner for Industry, Entrepreneurship & Tourism (TBC))
- ⑤ヅ・ブルスト (de Blust,M.: Secretary General, European Travel Agents' and Tour Operators' Association (ECTAA))
- ⑥トレス (Torres,A.M.: Chief Executive Officer Hotel, Restaurants and Cafés in Europe (HOTEC): Secretariat

(2)「批判的ツーリズム研究国際大会」:この大会は、直接的には、イギリス・ウエールズ大学のプリチャード (Pritchard,A.)、同大学のモーガン (Morgan,N.)、オランダ・ワーニンゲン大学のアテルイェヴィク (Ateljevic, L.) の提唱で始まったもので、ツーリズムの批判的研究の推進がモットーである。イギリスのサリー大学に本拠があるが、別図表2のような4つほどの大学・機関の後押しがある。現在のところ、隔年開催が原則で、クロアチアのドゥブロフニク(2005年・第1回)、スプリト(2007年・第2回)、サダル(2009年・第3回)、イギリスのカーディフ(2011年・第4回)で開催されてきた。参加者数は100人ほどで、学生や一般人の参加も歓迎とされている。次回大会は、2013年6月25~28日、サラエボで開催されることになっている。

これまでの大会では、例えば、2007年大会で、サリー大学のライブが基調報告をしたことがある。また2009年大会では、ハワイ大学のシェルドン、および、国際開発論で有名なヒラリー (Hilary,J.) が基調報告を行っている。

図表1: TEFIの協力校・機関

sponsoring 大学・機関 (○印は当初からの協力大学)
○ University of Hawaii
○ Temple University, Philadelphia
○ Modul University, Wien, Austria
○ Bocconi University, Milano, Italy
○ University of Queensland, Australia
University of Southern Denmark
La Trobe University, Australia
Southern Cross University, Australia
Virginia Tech University
Università della Svizzera Italy
The Hong Kong Polytechnic University,
(School of Hotel and Tourism Management)
The World Travel & Tourism Council (WTTC)
partner 大学・機関
International Academy for the Study of Tourism
Wien University of Economics and Business Management
Hawaii Visitors and Convention Bureau
http://www.besteducationnetwork.org/think

出所 : <http://www.tourismeducationfutures.org/partners>, accessed on 2012/9/15

図表2: 批判的ツーリズム研究国際大会協力校・機関

University of Surry
London Metropolitan University
Cardiff Metropolitan University
Institute of Tourism Zagreb

出所 : [http://www.surry.ac.uk/shtm/events/international critical tourism studies conference](http://www.surry.ac.uk/shtm/events/international_critical_tourism_studies_conference), accessed on 2012/9/15

注: 大橋昭一(2012)「批判的観光学の形成」『関西大学・商学論集』57巻1号, 61-84頁

受付日 2012年9月24日

受理日 2012年11月28日